

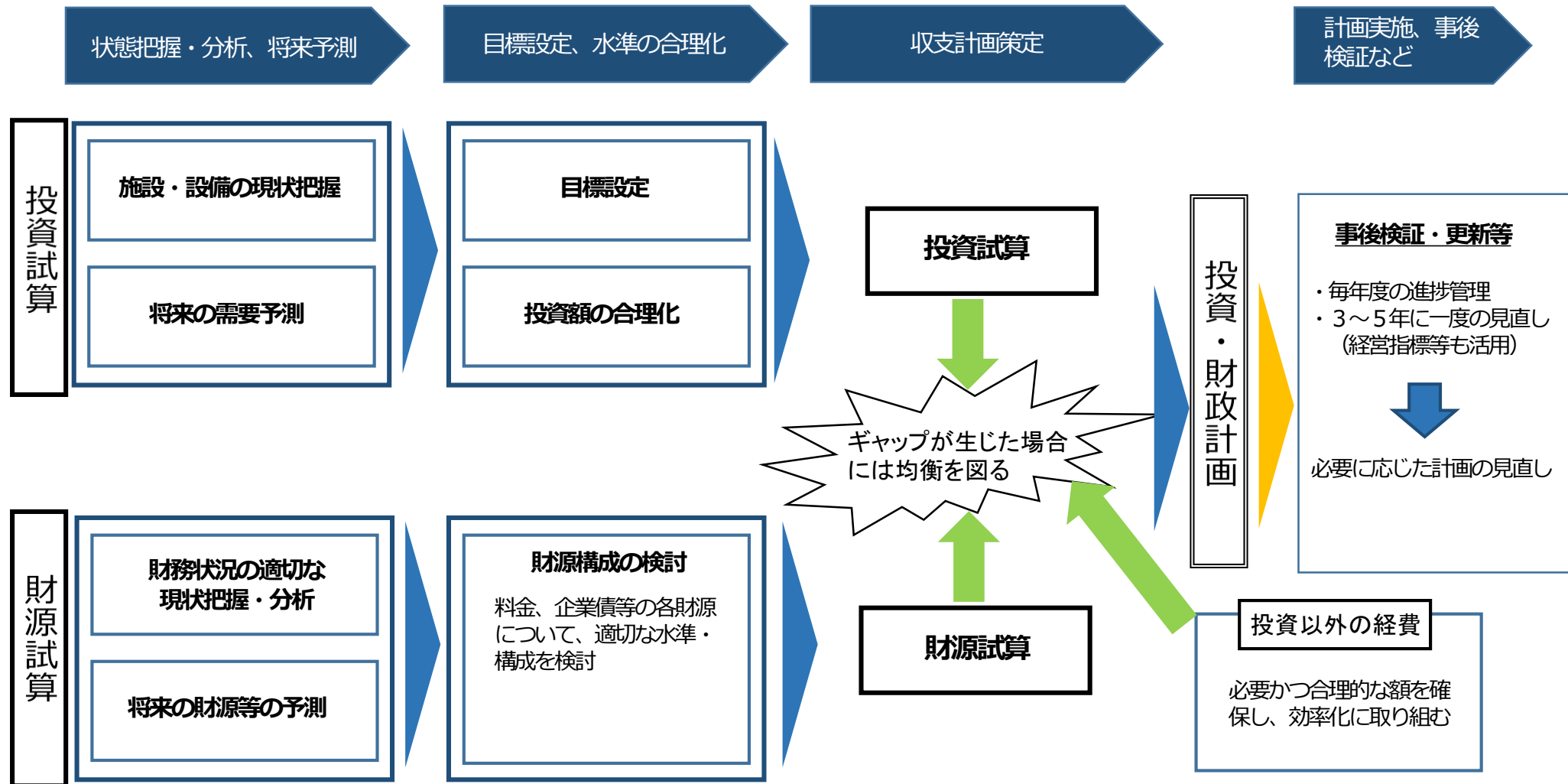
投資・財政計画について

令和元年 1 1 月 2 0 日 (水)

第 4 回川越市上下水道事業経営審議会

川越市上下水道局総務企画課

投資財政計画策定までの流れ



①投資試算

- 施設の改築費用
- 施設の新規整備費用
- その他営業に係る費用等
- 投資の基本となる計画
 - ✓ アセットマネジメント (水道施設の更新計画)
 - ✓ スtockマネジメント (施設の点検/維持管理計画)

原案に投資の内容説明を追加しました。

②財源試算

- 人口の減少を踏まえた収入見込み
- 企業債 (借入れ)

料金回収率・経費回収率の現状
水道事業 = 100%未満
(水道料金で経費を賄えていない)
下水道事業 = 100%超
(下水道使用料で経費を賄えている)

水道料金水準の検討が必要です。

③収支均衡

- 赤字となる年度はないか
- 手持ち資金の不足はないか

収支均衡策等
適切な内部留保資金額とは
適正な料金・使用料
適正な借入額

必要な内部留保資金額を設定しました。

1. 設備投資

本市の水道施設は、今後大量更新の時期を迎えるため、多額の費用を要することになります。経営戦略では、アセットマネジメントで見込んだ投資額、上下水道ビジョンで示した投資目標を使用し、現状で把握できる全ての金額を盛り込んでいます。

内部留保資金の確保すべき数字（25億円）を設定しました。水道事業では、水準を下回る期間が発生するほか料金回収率が100%を下回り、原価の回収が来ていません。

投資財政計画

2. 収入予測

人口の変動予測を反映した収入を見込んでいます。今後は新たな需要の発生は見込まれないことから、水道料金収入の増加を望むことが難しくなっています。公営企業としての水道事業は、独立採算経営が求められます。

料金回収率を100%以上とするために、水道料金水準の見直しが必要です。内部留保資金を確保すべき水準とするため、企業債充当額と料金水準の見直しを組み合わせた収支均衡策を検討する必要があります。

3. 内部留保資金

4. 収支均衡

1. 設備投資

下水道事業では、ストックネジメントにより、調査・点検を行っていく計画になっています。調査の結果必要となる費用は、見込んでいませんが、上下水道ビジョンに示した投資目標による費用を見込んでいます。

内部留保資金の確保すべき数字を設定（30億円）し、計画期間中の水準を検証したところ、下水道事業では、確保すべき水準を大幅に上回ることが判明しました。

投資財政計画

2. 収入予測

人口の変動予測を反映した収入を見込んでいます。近年の社会情勢からも、今後下水道使用料収入の増加を望むことが難しくなっています。公営企業としての下水道事業は、水道事業同様に独立採算経営が求められます。

現状では単年度の収支が厳しい年度はあるものの黒字を保つことができています。内部留保資金が増加し続けていることから企業債充当額を調整する必要があります。

3. 内部留保資金

4. 収支均衡

水道事業

当面の間に現金支出として支払う必要がある金額を見込みました（概算）。

3.5億円 + 11.5億円 + 10億円

企業債元利償還金の6箇月分

受水費の6箇月分

災害復旧費



約25億円

下水道事業

当面の間に現金支出として支払う必要がある金額を見込みました（概算）。

6億円 + 6億円 + 18億円

企業債元利償還金の6箇月分

維持管理負担金の6箇月分

災害復旧費



約30億円